

会 議 事 録

| | |
|----------|--|
| 1 会議名 | 平成30年度長岡市高齢者保健福祉推進会議 |
| 2 開催日時 | 平成31年2月4日(月曜日) 午後1時30分から午後3時まで |
| 3 開催場所 | アオーレ長岡 東棟4階 大会議室 |
| 4 出席者名 | (委員) 本田委員長 長谷川剛副委員長 岡村委員 金子委員 柄澤委員 鯉江委員 小西委員 小林啓一委員 小林守委員 佐合委員 竹内委員 長谷川和明委員 長谷川美恵子委員 藤田委員 堀委員 村松委員 山崎委員 吉井委員 米山委員 (事務局) 福祉保健部長 福祉総務課長 介護保険課長補佐 長寿はつらつ課長 健康課長 長岡市社会福祉協議会事務局長 ほか関係職員 |
| 5 欠席者名 | 林委員 |
| 6 議題 | (1) 第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の実績及び 第7期同計画の進捗状況について (2) 高齢者日常生活圏域ニーズ調査について (3) その他 |
| 7 資料 | 別添のとおり |
| 8 審議の内容 | |
| 発言者 | 議 事 内 容 |
| 福祉総務課長補佐 | ○新任委員の紹介 |
| 岡村委員 | ○岡村委員あいさつ |
| 福祉総務課長補佐 | ○配布資料の確認 |
| 委員長 | ○委員長あいさつ ○会議の傍聴・公開についての確認(傍聴者なし) |
| | ○議題 (1) 第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の実績及び 第7期同計画の進捗状況について |

| | |
|----------|--|
| 福祉総務課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・第6期計画の実績について、資料No.1に沿って説明 <p>(以下、第7期計画の進捗状況について、事務局から各課の所管について説明)</p> |
| 介護保険課長補佐 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料No.2別紙に沿って説明 |
| 長寿はつらつ課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料No.2に沿って説明 |
| 健康課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料No.2、資料No.2別紙に沿って説明 |
| 福祉総務課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料No.2別紙に沿って説明 ・介護人材確保に向けた方策について説明(資料なし) <p>関係者による意見交換会を定期的に開催し、情報共有、対策、検討等を行っているとともに、市内事業所職員に対して介護福祉士実務者研修受講用補助金を交付している。</p> <p>また、市内で特別養護老人ホームを運営している14の社会福祉法人と、介護福祉士等を養成する4つの専門学校とで結成した「ながおか介護職イメージアップ研究会」が行う介護職のイメージアップを図るための事業に対し、補助金を交付して支援を行っている。平成30年度は、介護職のイメージアップのためのパンフレット「トキメキビト」を同研究会が作成した。こういった物を使って介護職のマイナスイメージを払拭して、介護人材の確保に努めていきたい。なお、パンフレットは市にも残部があるため、皆様からも周りの方にご紹介頂き、また介護職のイメージアップが図ればありがたい。</p> |
| 委員長 | <p>施設整備や人材確保等の関係で、施設を開設したけれども人材がいなくて、というようなことも少し耳にしている。その点、市の方では全体のイメージアップということで、補助金を出す形で工夫をしている。皆様からざっくばらんに意見を頂きたい。</p> |
| 委員 | <p>介護人材不足については、今いる職員数で対応できるように事業の縮小も含めて考えていかないといけないくらいに厳しい状況ではある。このイメージアップ研究会が作成したパンフレットに載っている写真の方は実際に現場で働いている職員であるため、職員はモチベーションが上がり、やる気も出てくる。これを見ながら介護職という現場に様々な方から目を向けて頂けるとありがたい。</p> |

| | |
|----------|--|
| 委員 | <p>介護だけに限らず、今長岡市では非常に人が足りていない。一方で、給料もそんなに上がっていない状況で、どうやって人を地元に残していくのかということ、市は大きな目で考えないといけないのではないかという感じを受けている。</p> <p>それと、介護系の専門学校は大幅に定員割れをしている。一方で、看護系はそれなりに集まっている。そもそも入口でそういう部分に関わらなければ、突然介護に関わってくださいと言われても、なかなか難しい。介護人材を養成する段階できちっと施策を考えていく必要があるのではないかと常々思っている。</p> |
| 委員 | <p>「安心連絡システム」について、実は昨年私の町内で一人暮らしの男性が亡くなり、発見が少し遅れたということがあった。他の一人暮らしの方にこのシステムについて聞いても、装置は設置されておらず、システムについてもあまりよく理解されていない。このシステムは一人暮らしで生活している者にとって非常に大切なシステムであるため、周知・啓蒙を強化しても良いのではないかと。</p> <p>また、「ICT情報連携システム『フェニックスネット』の推進」について、7月から全市民が対象になったということで、昨年に市から配布物が届いたが、フェニックスネットの登録について内容がよく分からなかった。全市民に拡大実施するという前段で、なんらかの方法で周知、説明会みたいなものがあつた方が良かったのではないかと感じた。</p> |
| 長寿はつらつ課長 | <p>安心連絡システムは、現在約700名から、フェニックスネットは約4,000名から登録頂いている。フェニックスネットは昨年の7月から本庁や支所で市民の方からの直接の申込受付を開始し、今のところ192名のご本人またはご家族の方から窓口にお越し頂いた。</p> <p>今までも市政だよりや防災説明会等で説明させて頂いていたが、引き続き制度の周知に努めたい。</p> |
| 委員長 | <p>フェニックスネットの具体的な流れや、どういう対象で登録するとどうなるのか教えて頂きたい。</p> |
| 長寿はつらつ課長 | <p>2つの大きな目的がある。1つは、医療機関あるいは介護サービス事業所がある在宅の方に携わっている場合、それぞれの機関がどういう診断や薬の処方、サービスを行っているのか関係者が情報共有し、その方に対するより適切な日頃の在宅ケアに役立てるというもの。もう1つは、容態の急変時、駆けつけた救急隊がその方の状態像を素早く分かるようになるもの。また、その情報を搬送先の病院も分かる仕組みを作っているため、救急搬送された場合により素</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>早く、適切な医療に繋がられる。</p> <p>医療機関・介護サービス事業所から登録して頂くことや、介護サービスあるいは医療機関にはあまりかからないお元気な方、一人暮らしの高齢者の方でご家族が離れて暮らしている場合にも、登録して頂くことで適切な医療に繋がられたり、緊急連絡先への素早い連絡もできるため、できるだけ多くの方からご登録頂きたい。</p> |
| 委員長 | <p>このフェニックスネットの全市民を対象にしているというのは全国的にも非常に注目されている部分だと思う。</p> |
| 委員 | <p>フェニックスネットについて、どの病院にかかっているにも登録して良いものなのか。</p> <p>また、地域包括支援センターは加入しているのか。</p> |
| 長寿はつらつ課 | <p>フェニックスネットには基本的に市内の病院は、情報共有できるものとして加入をしている。救急隊はタブレットにより情報を確認でき、救急病院の方でも情報を見れるような状態になっている。病院により見れる情報の範囲は違うが、基本的に病院は全て見れる状態になっている。</p> <p>地域包括支援センターについては、まだタブレット等を配置していないため、これからの課題ということになっている。</p> |
| 委員長 | <p>フェニックスネットはまだまだこれから作り上げていく部分もあるのだろう。情報共有には個人のプライバシーの関係も含めながら連携というようなことになってくるかと思っている。</p> <p>また、各地区の地域包括支援センターでは、福祉職、医療職の方々が一室に集まって、顔の見える関係を作っている。</p> |
| 委員 | <p>「スポーツ・レクリエーション活動の推進」について、年々スポーツ大会の参加者が減っている状況だ。老人クラブのクラブ数も年々減少しているが、連動しているのではないかという気がする。</p> <p>もう一方で、「多世代健康まちづくり事業の推進」について、健康クラブの会員数は増えているとあり、このクラブの会員は高齢者が多い、特に女性が多いと伺っている。このことから、健康づくりには非常に興味があるのだが、まとまって団体としてやるよりは、個人志向になっていると考えられる。この個人志向をどう捕らえていくのかが、今後の課題になってくると思う。</p> <p>「老人クラブ」という名前がどうなのか。例えば、私の地域では町内会とは別に老人だけのクラブ、会があるのだが、そこが高齢化してきて運営が大変になってきていると聞く。60代の方に声を掛</p> |

| | |
|-----------------|--|
| <p>長寿はつらつ課長</p> | <p>けてみても「60代はまだ若手だから入りたくない」と言う方が多く、だんだん高齢化していった活動が苦しくなってくるのではないかと感じている。なので、「老人クラブ」というくくりの定義は変えずに名称を変えるとか、個人をどう顔が見える関係に繋げていくかということが、各地域にとっての課題だと感じているため、今後ご一考頂きたい。</p> <p>おっしゃるとおり、個人で楽しむとか健康づくりとか、そういう志向の方が増えているだろうと私の方でも感じている。老人クラブの会長さんや役員の方からは、やはり若い人（60歳以上）がなかなか入ってこない、老人クラブ自体も高齢化していったり、役員のなり手がいなかったりというようなことも聞いている。</p> <p>個人で楽しんだり健康づくりということも非常に大事ではあるが、人と人が話をしたり、一緒に楽しんだりということも非常に大切な介護予防活動の一つ、社会参加という視点から大事なことだろうと考えているため、魅力ある老人クラブづくり、魅力ある活動をどのように展開して行けば良いのかというところを老人クラブの役員の方と一緒にこれから考えて行きたいと思っている。</p> |
| <p>委員</p> | <p>地域包括ケアとフェニックスネットについて。実は、私の母が病院での治療を経て、施設入所ではなく自宅での生活を選択した際に、病院や介護サービス事業所の関係者が集まり、病院にいる間に、帰宅後の訪問看護、訪問診療、入浴などのことを計画して頂き、安心して自宅に帰れた。そして、自宅に帰ってからも、すぐ訪問診療所の方がフェニックスネットに登録したらどうですかと言われて登録して、最期まできちんと看取ることができた。地域包括ケア、フェニックスネットをスムーズに安心して利用させて頂き、ありがたかった。</p> |
| <p>委員</p> | <p>やはり福祉業界の人材不足は本当に大きな課題で、派遣職員の方すら集まらないような実態。その中で、人材の補填という意味ではICTを活用して間接業務を賄っていくというのも1つの方法だと思うし、連携という部分でも、やはりフェニックスネットの活用は効率的だと思う。</p> <p>フェニックスネットは、最初の頃は医療系と在宅の所が中心だったのが、今年の7月から市民まで広げたというのがすごく進歩している部分だと思う。また、在宅の方だけではなくて入所系の方々もフェニックスネットに登録できると医師会の方から連絡があった。グループホームでは夜間帯は職員体制が1～2人と非常に少ないため、それでも非常時にいち早く救命に結び付けられるよう、グル</p> |

| | |
|-----------------|---|
| <p>委員</p> | <p>ープホームの利用者は全員同意を得た。登録は医師会の方でやって頂けるといふことで、登録が施設にも広がった。フェニックスネットは進化していると思う。</p> <p>安心連絡システムについて。</p> <p>地区のある一人暮らしの方が安心連絡システムを入れていて、触ってもいないのに夜中の4時に救急隊が来て大騒ぎになっても、本人は知らないで寝ていたということがあったが、担当民生委員である私に連絡が無かった。本人は認知症で夕方から何時間も寝ていたのか、本人の動作がないことを安心連絡システムのセンサーが感知してコールセンターへ自動通報したのだらうという結論だった。</p> <p>コールセンターから親戚代表の電話番号に連絡を入れても繋がらず、近所の方ということで本人の隣の家に連絡が入り、隣の人は声を掛けたけど夜中だから本人は寝ていて起きないし、鍵もかかっていると確認した。そのことをコールセンターへ報告したら、次はタクシー会社に来て、2人でドアを叩いたりドアホンを鳴らしてみただけどやっぱり起きないため、タクシー会社の方がコールセンターへ報告すると、救急隊が来たということだった。</p> <p>安心連絡システムには一応民生委員も電話番号を教えているのだが、連絡はしない形になっているということはこのたび初めて知った。レスキュー隊とかが出る前に、民生委員に一報があっても良いのではないか。私はその方の担当民生委員として、本人の非常時に家の中に入れるように、1か所だけ鍵を開けておこうと親戚の方と決めていた。連絡をもらえれば安否確認くらいはできたと思う。</p> <p>なぜ連絡する必要のない民生委員の連絡先を聞いておくのかとか、もう少し救急隊が出動する前に何か手立てはないのかとか、このようなことはどこに相談したら良いのか。</p> |
| <p>長寿はつらつ課長</p> | <p>いざという時の夜中とかはそれぞれの方の設定によるが、何時間以上動きが無いとセンサーが感知すると、とにかく生死にかかわる問題、危険性があるということで、近所の方、委託先のタクシー会社が順に安否確認をすることになっている。それでも安否不明の場合は、生死をまず救うということが第一のため、止むを得ず救急隊の方から自宅に入るという対応も実際にはさせて頂いている。</p> <p>民生委員さんの連絡先も、個々に事情は違うが登録させて頂いており、緊急連絡先のお一人として民生委員の方を登録させて頂いている方もいる。個別の事情があるため一律にということは申し上げられないが、今おっしゃられたところも大きな課題の一つだと思っているため、個別の対応に応じて改善点が無いか、もう一回再検査させて頂く。</p> |

| | |
|--------|--|
| 委員 | <p>老人クラブについて、ある地区では老人クラブの会長になると、アオーレでの会議に参加しなくてはならないとのことで、車の運転に自信が無くアオーレまでは行けないため、会長職は難しいと言って会長になる方がいなく、老人クラブが廃止されているというのを聞いたことがあった。</p> |
| 委員長 | <p>やはりこの場では色々な情報が共有できるし、聞いてみればああそうだなというようなことにもなるかと思う。また、今の中で改善するところ、あるいは課題等々それが解消できるよう探っていって頂きたいと思う。</p> |
| 福祉総務課長 | <p>(2) 高齢者日常生活圏域ニーズ調査について (資料No.3、No.3別紙に沿って説明)</p> |
| 委員長 | <p>第8期の計画を作るにあたって事前に余裕を持って進めたいということ。委員から何かあるか。</p> |
| 委員 | <p>今説明があった、総数に対して8,500人というのはサンプルで言えば十分すぎるほどで、数的には全く問題ない。前は、川口とか山古志など人数が少ない地域の分調整して集計をした。調査票は、この会議でよく議論をして頂ければ良いと思う。</p> |
| 委員長 | <p>(3) その他 今までの中で何か言いたりないことや課題等、何かあるか。</p> |
| 委員 | <p>認知症のサポーター養成講座について、大学で学生約80名くらいの受講生に対して認知症についてお話し頂いた。学生の中には、家族の方を介護しているという者もいるし、同居ではないため分からない、初めて聞いたという者もいるため、広く学生から認知症について理解してもらっている。</p> |
| 委員長 | <p>他に無ければ、進行を事務局に返させて頂く。</p> |
| 福祉保健部長 | <p>○福祉保健部長あいさつ</p> |

| | |
|-----------------|--|
| <p>福祉総務課長補佐</p> | <p>介護保険制度が始まってから今、第7期の計画を実施しているところではあるが、介護保険制度が始まった頃と比べると現在の社会的な環境というのは非常に大きく変わってきている。何よりも国全体で人口減少が著しく、それに伴う労働力不足も顕著である。そして、高齢者の割合が非常に大きくなってきているが、ただ一口に高齢者と言っても、介護保険制度が始まった時の高齢者と、これから的高齢者というのは、全然違う実態であると考えている。</p> <p>そういう中で今後介護が必要になった時にはどうしていくのか、また、サービスの在り方も時代のニーズに合ったように変えていくべきなのだろう、その在宅生活の在り方も変わっていくであろうと思っている。そういう現実のニーズを捕らえながら、今後も様々な事業を見直しをかけていきたいと思っているため、またこれからもご指導、ご教示をよろしくお願いしたい。</p> <p>○閉会（事務連絡）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の開催について <p>今年度の会議は本日の1回のみ。</p> <p>来年度は7月と2月の2回開催を予定している。議題は、7期計画の進捗状況報告と、7月はニーズ調査の調査票について、2月は調査結果の報告等を予定している。</p> ・議事録について <p>本日の会議の議事録は、後日委員に送付すると共に、市のホームページにも掲載をさせて頂く。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |
|-----------------|--|